

平成 19 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320051

研究課題名（和文） 来日ロシア人の社会的諸活動についての総合的研究

研究課題名（英文） General Research of the History of Russian Emigration to Japan in 19-20th centuries

研究代表者

P Podalko（P PODALKO）

青山学院大学・国際政治経済学部・准教授

研究者番号：50383493

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、その他の外国語・外国文学

キーワード：(1)日露交流(2)ロシア革命(3)難民(4)共生(5)異文化理解

## 1. 研究計画の概要

(1) 本研究の主たる目的は 1917 年のロシア革命後、混乱した祖国を離れ難民化したロシアの民衆の内、日本を通過あるいは定着した者たちの足跡を尋ね、彼らと日本人の交流の諸相とその実態を明らかにすることにある。

(2) この目的を達成すべく、日本各地、世界各地に散在する基本資料を収集し、関係者から聞き書きをするなど、研究会活動に精力的に取り組んだ。

(3) 各人の研究成果を隔月の研究会において披瀝しあった。例会は現在で過去 3 年で 15 回、通算 68 回を数えている。

(4) 併せて、本来の研究会成員のほか、在野の研究者にも例会を開放することにより、彼らの研究成果も積極的に取り入れると同時に、得られた知見の公共化を計った。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 研究会のメンバーの研究の結果、難民として渡来したロシア人の日本における活動の跡は、難民として渡来したロシア人の日本における活動の跡は音楽、演劇、バレエ、絵画、学術、スポーツなど多方面において印されていることが判明した。例えば、

音楽ではチャレブニンが伊福部昭など日本人の音楽家を育てたこと。演劇では新劇活動に対するロシア人の影響が明らかにされた。バレリーナ、エレノア・パブロワやオリガ・サファイヤの活動 絵画におけるブノアの活動など

(2) 研究の進捗は隔月の例会の成否によって計られるが、例会は本来の研究参加者以外の方々の多数に参加を得て、毎回盛会のうちに行われている。参加者の数は 50～40 人を数えている。

(3) 例会では毎回 3 時間に渡り 3 本の報告が行

われ、それぞれの各報告には活発な質疑が行われている。

(4) 閉会後にも懇親会の形式で意見・情報の交換が行われている。

(5) 各自の研究成果と例会の成果とは 2 年に一度刊行される論文集『ロシアと日本』と年に 3 回発行される会誌『異郷』に示される。

(6) 2 年に一度、研究成果の集約的確認のために研究会合宿を行っている。一昨年はこれを神戸外国語大学にて開催した。

## 3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

(1) 例会は本年 2 月現在で 67 回目を数えている。(過去 3 年に限れば 15 回)

(2) 論文集『ロシアと日本』は第 7 集を刊行し、現在 8 集の刊行を目指して準備中である。(過去 3 年に限れば 1 集)

(3) 同論文集のうち、4 集からは別途「異郷に生きる」と題する市販本をとしても刊行している。

(4) 会誌『異郷』は現在 29 号の刊行準備中である。(過去 3 年に限れば 9 号刊行した)

## 4. 今後の研究の推進方策

(1) 基本的には従来の方策を継承し、研究の空白部分を埋めるべく、鋭意努力する。

(2) これまでの当研究グループの研究活動に触発されて現れつつある若い研究者をも新たなメンバーとして加えることによって、研究会活動の活性化を図る。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計55件)

ポダルコ・ピョートル

「亡命ロシア人関連資料の分析をめぐって」  
『青山学院大学国際政経論集』第75号 2008年5月 pp.141-146 (査読有)

澤田和彦

「日本正教会と白系ロシア人 - 1920~1930年代を中心に」『ユーラシア研究』38号、ユーラシア研究所、2008年5月、pp.33-39 (査読有)

中嶋毅

「ハルピンのロシア人社会」松里公孝『講座スラブ・ユーラシア学』第3巻『ユーラシア帝国の大陸』、講談社、2008年3月 pp.266-294

中村喜和

「亡命ロシア人の旅路 ヴィクトリア・ヤンコフスカヤの手紙を中心として」ポダルコ・ピョートル編『ロシアと日本第7集』成文社、2008年3月、pp.115-133

サヴェリエフ・イゴリ

「The Transition from Immigration Restriction to the Importation of Labor: Recent Migration Patterns and Chinese Migrants in Russia」『International Development Forum (Nagoya Univ. Graduate School of International Development) no.35, 2007, pp.21-35

[学会発表](計60件)

ミハイロワ・ユリヤ

、ロシア東洋学院研究所、2009年1月10日。

澤田和彦

「ペテルブルグのプロニスワフ・ピウスツキと二葉亭四迷 - ペテルブルグ調査旅行報告 - 」第66回「来日ロシア人研究会」青山学院大学、2008年12月6日

中嶋毅

Educating Engineers in Russian Harbin, 1920 - 1958', MAPPING THE HISTORY OF NORTHEAST ASIA: International Workshop, Kioloa, The Australian National University. 2008年11月28-30日

サヴェリエフ・イゴリ Building a "Golden Age" in Russo-Japanese Relations: Motono Ichiro and Russo-Japanese Rapprochement, 1906-1916". The European Association of Japanese Studies Conference, Sorrento University, 2008年9月20日

ポダルコ・ピョートル "General V.K.Samoyloff: Military Man Working for Peace (from the History of Russian Diplomacy of the 20<sup>th</sup> Century)": The 12<sup>th</sup> Asian Studies Conference Japan (ASCJ), Ryukyo University, "Individuals in Policy Making: Japan and Russia in the end of the 19<sup>th</sup> and the beginning of the 20<sup>th</sup> century" 2008年6月22日

[図書](計6件)

澤田和彦 Pilsudskiana de Sapporo. No. 5. Bronislaw Pilsudski in Japan. Saitama, Saitama University, 2008, vii+204 p.

中村喜和、長縄光男、ポダルコ・ピョートル編『異郷に生きる』成文社、2008年、278pp

澤田和彦『白系ロシア人と日本文化』、成文社、2008年390pp.

長縄光男『ニコライ遺聞』成文社、2008年、390pp

中村喜和『ロシアの木霊』風行社、2006年、323pp

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

[その他]